

文化財を守る心と技を

見学・体験で実感し理解を深める

株式会社 宇佐美松鶴堂

取締役 宇佐美栄子さん



宇佐美直秀さん・栄子さん夫妻

平成22年度 採択事業

かけがえのない技を伝承する老舗

昨今では「表具」と言っても、何のことか解る人が少なくなっています。表具とは襖や障子、屏風、掛け軸などを仕立てることで、このうち書画を布や紙で補強して掛け軸や額にするのが「表装」です。「わかりやすく言えば、布と紙と糊を使ってきれいにする仕事ですね」と九代目になる社長の宇佐美直秀さん。けれども暮らしが西洋化し、和室さえない家も増えている現代。この言葉はおるか、掛け軸そのものを見たことがない若者も増えています。

宇佐美松鶴堂は、西本願寺の向かいに店舗を構える表具・表装の老舗です。創業以来200余年にわたり、西本願寺および全国の社寺から住宅用まで襖や掛け軸などを幅広く手がけています。また、昭和26（1951）年からは京都国立博物館に文化財保存修理所を設置し、長年培ってきた技で国宝・重文指定をはじめ貴重な絵画・書蹟・染織品などの修理を行ってきました。



作業室を外から見学できるガラス戸

ファンで見学の要望に応える

宇佐美松鶴堂で扱っているのは“いにしえ”から伝わる文化財や名だたる作品です。経年変化によって、触ただけで崩れてしまいそうな非常にデリケートなものもあります。これら歴史的遺物は復元不能で、作業には細心の注意が払われます。町家の店舗を昭和63（1988）年に建て替えたのも、空調設備を調べて、預かっている書画などに負担をかけないようにとの配慮がありました。扉を開閉するだけでも温度や湿度が変わってしまうし、繊細な作業に近寄り万一のトラブルがあつてはいけなないので、保護面から見学の希望を断っていました。

けれども掛け軸すら知らない人たちに、作業を見て理解を深めてもらいたい。素晴らしい伝統を継承してゆくためにも技を伝えたい。そこで、ファンを利用して工房の入口をガラス戸に付け替え、閉めたまま中の様子が見えるようにしました。戸は作業室の中央に付いているので、ほぼ全面を見渡せます。筆を取る人、絵の具の色合わせをす

観光資源の活用 伝統製品の活用

る人、糊を引いて布を貼る人…。お客さんはガラス越しに職人さんたちの手先を見つめ、多彩な工程を興味深く眺めていくそうです。



予約すれば一人でも可能な体験工房

自作タペストリーで暮らしに和の風を

「日本の文化である和室の魅力をわかってほしい。その一端としてやっています。そして掛け軸は、床の間にしか飾れないことはありません。ちょっとしたスペースにかけられるようなものを自分で作ることができたら、愛着が湧いて大切にできるでしょう。これをきっかけに身の回りを見渡せば、もっと日本文化にも興味が湧いてくると思います」と妻の宇佐美栄子さん。

そのため見学と一緒に始めた体験工房では、本来は床の間に飾る掛け軸を、ミニタペストリーにアレンジして作れるようになっています。これなら気軽に飾れるので、通常の掛け軸には使わない、例えば黒一色の生地やモダンな柄物を用意。若い人のインテリアにも似合う色柄を揃えることで、和物を生活に取り入れる楽しさを感じてもらえると配慮しているそうです。

本来の仕事は一通りの作業を覚え、様々な技を積み重ねて、一人前になるには10年ほどかかります。けれども体験は製作しやすいキットになっているので、どなたでも1～3時間程度で完成します。この体験に使う道具類も、ファンで揃えました。「職人は自分の愛用品を大切にしていますから、それをお貸しするわけにはいきませんので」と栄子さん。今後は文化財修理や表具の作業工程がわかるDVDなどを制作し、見学者に見てもらい、更に理解を深めていただきたいそうです。

今まで一般の人はふれることができなかった分野だけに、お客さんの中には「他では見られない技を見て、自分でも作ることができた」と感動のあまり泣き出してしまった学生もいたそうです。



表装材で作った和小物やオリジナルグッズ

日本の伝統文化の裾野を広げる

本物の表装に用いるのは、やはり日本が誇る伝統産業の西陣織です。丹念に織り上げられた本金欄の端材がもたないないので、バッグハンガーやループタイ、ストラップなどに加工して販売も始めました。かねてより少しずつ作っては記念品や販促代わりに差し上げていたそうですが、評判が良かったのでファンで拡充し、販売できるようになったとのことです。

「持てる技を観光資源として活用しながら伝統への理解を深めてほしいと始めた事業であり、観光目的でこれらのお客さんが多いと思っていたのですが、蓋を開けてみるとこの仕事に就きたいと望む人がほとんどだったのは意外でした。伝統産業に後継者難が叫ばれる時代にあって頼もしいですが、すべての人を雇用するわけにはいかないのが残念です。今後は和紙や西陣織の裂地を使う体験メニューを増やし、手作り趣味の一つとしてなじんでもらいたい。宇佐美松鶴堂では外国からの研修生受け入れなども行っており、これを機に技を通じた国際文化交流もさらに進めていくつもりです」とのこと。幅広いアプローチで、日本が誇り、大切にしたい伝統文化の裾野を広げていく決意がくみ取れました。

事業概要

株式会社 宇佐美松鶴堂

<http://www.usami-shokakudo.co.jp/>

代表：宇佐美直秀

業種：文化財（絵画・書蹟・染織品等）の保存修理、表具・表装の新調・修理

創業：天明年間（1781～88） 設立：昭和49（1974）年
住所：〒600-8349

京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 98
TEL：075-371-1593(代) FAX：075-371-6838